

中学校第3学年3組音楽科学習指導案

学習指導者 教諭 中多 真央

1 題材名 音楽の背景を理解し、曲想と曲全体の構成との関わりを考えながら鑑賞しよう

2 題材について

(1) 本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年(2)B 鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)を扱う。この題材では、スメタナ作曲の連作交響詩「我が祖国」より第2曲「ブルタバ」を教材曲とする。この曲には当時チェコがオーストリア・ハンガリー帝国の支配下であったこと、また、スメタナの愛国心が大きく関わっている。解説の最初にはブルタバ川の叙述を表したものと記述されているが、そのように書かざるを得なかった当時の状況や曲に込めたスメタナのチェコへの思い、それを表すための作曲の仕掛けを理解し、音楽のよさや美しさを味わうことがこの曲の醍醐味となる。

そこで、本題材では、付けたい力を以下の2点とする。

- ① 音楽の特徴と、標題及び歴史的背景や作曲者の国に対する思いとの関わりを理解する力。
- ② 理解したことをもとに曲に対する評価やその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わう力。

この題材を通して、3学年間で行ってきた学習を想起しながら、音楽のよさや美しさについて考えを深めることを行っていく。標題と音楽を形づくっている要素との関わり、曲に登場する主題の比較とチェコ民謡との関わりを理解することが、曲の価値を考えることとなり、音楽そのものの価値について見つけていくことが可能となる。これまでの学習のまとめとしても相応しく、今後の音楽との関わり方についても考えを深めていくきっかけとなっていくと考えている。

(2) 本学級 30 名の生徒は、どの学習においても真面目に取り組み、班活動においてはお互いに意見を聞き合いながら考えを深めることができる。これまでの学習において、描写的音楽を「春」「魔王」の鑑賞で学習し、曲の特徴と作曲者の意図とを結び付けていく活動を「花の街」や「花」などの歌唱共通教材を通して行ってきた。表現の工夫や曲の良さを記述する際には、キーワードを教師が提示し、それを入れながら書くことを行ってきた。そうすると9割近くの生徒が自分の考えを書くことができるようになってきている。ただ、その曲らしさが伝わるように特徴を具体的に書くことができるのは3割程度にとどまっている。

(3) この題材を指導するにあたって、次の点に留意したい。(授業の見どころ)

- ・ 『「ブルタバ」を聴き、チェコの人々は何を思うのだろうか』という題材を貫く課題を設定し、聴取したごとと川の美しさや歴史的背景によって想起される作曲者が抱いているチェコへの誇りとを結び付ける。
- ・ 部分聴取を行う中で、その聴取した部分だと分かるよう詳しく記述するように助言を繰り返す。
- ・ 聴取においては何を考えるのか、また何を聴取するのかを明確にした発問・助言を行っていく。
- ・ 比較をする際には、楽譜上に矢印を用いることで、旋律の動きの違いを明確にする。
- ・ 各授業においてキーワードを示し、それを入れながら振り返りを記述させる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「ブルタバ」の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。	「ブルタバ」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	「ブルタバ」の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりや曲の評価とその根拠について関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。

4 学習指導計画

- (1) スメタナや連作交響詩「我が祖国」について知り、標題と曲との関わりを理解する。・・・1時間
- (2) 歴史的背景や文化との関わり、作曲者の思いをもとに曲のよさについて考える。・・・1時間 (本時)
- (3) 現代のチェコの人々にとっての価値を考え、学習を振り返る。・・・1時間

5 本時の学習指導

(1) 目標 当時のチェコの状況をもとにチェコ民謡が使われている背景を理解し、想像した作曲者の思いや曲の特徴の関わりを根拠にし、曲のよさや美しさについて考える。

(2) 学習指導過程

	学習活動	生徒の予想される反応	指導上の留意点
つかむ	1 前時の学習を復習し、本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標題が音楽を分かりやすく説明していた。 ・ 本当に川の流れを表現したかったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交響詩がソナタ形式等の形式が大切にされ、詩的な言葉で楽曲を説明したものであり、本来は何かを描写をした音楽ではないことを紹介する。
	<p>学習課題 スメタナはこの曲で何を表現したかったのか。</p>		
つかう	2 用いられているチェコ民謡を知り、主題の原型になっていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の時に聴いた曲と似ている。 ・ なんとなく似ている気がする。でも、違うような…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェコ民謡の楽譜を準備し、「ロイロノート」で配布する。 ・ 拍子の違いによる違和感を拭えるように、ブルタバの拍子や用いられるリズムで演奏する。
	3 登場する主題を比較し、民謡により似ている主題は何回目か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の動きから一番似ているのは最後の主題だな。 ・ 最後の主題では速度も上がり、長調の部分になるから、より民謡に近い感じがするな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どっちが民謡と似ているだろうか。」と発問し、主題の比較聴取を行わせる。 ・ 比較させる際には旋律の動き、調性、速度の3点で比較させ、主題の違いをはっきりさせる。
つなぐ	4 民謡が使われている作曲者の意図を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に民謡の原型に近いものを持ってきたのは、チェコ人としての誇りや文化を大切にしていこうという思いがあったのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「民謡と同じ旋律を最後に取り入れたのはなぜだろう。」「誰に気づいてほしかったのかな。」と補助発問し、チェコ人に向けての作品だと意識させる。 ・ 当時のチェコ国内の状況からチェコ人としてのスメタナの望みを考えさせることで、作曲の意図を考えるきっかけとする。
	5 本時の学習を振り返る。 (1) スメタナの意図を踏まえ、鑑賞し、この曲のよさや美しさについて考える。 (2) 振り返りを記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題の短調から長調への変化は、川が広がるのではなくチェコへの希望も含まれているはず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめとして、「ブルタバの主題」をキーワードにして、この曲のよさや美しさについてまとめさせる。 ・ 振り返りの視点として、「分かったこと」、「学習を踏まえてこの曲に対して思うこと」の2点を提示する。
かえる	<p>振り返り 作曲者のチェコへの思いが主題の変化に込められていることが分かった。より主題が美しく聴こえた気がした。現代のチェコの人々にも同じように伝わっているのか知りたい。</p>		

(3) 評価

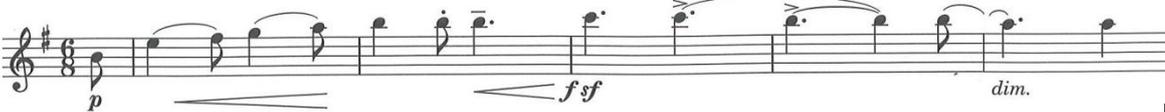
ここでは、ワークシートを分析することにより、「思考・判断・表現」の評価を行う。

- A： 登場する主題の変化を根拠にし、作曲者の意図を踏まえて曲のよさや美しさについて記述している。
- B： 主題の特徴を根拠にし、作曲者の意図を踏まえて曲のよさや美しさについて記述している。
- C： 主題の特徴や作曲者の意図を踏まえずに曲のよさや美しさについて記述している。

スメタナはこの曲で何を表現したかったのか？

1、スメタナの多くの作品でチェコの伝統的な歌(民謡)の影響がある。(ロイロノート) それとの関わりについて考えてみよう。

①ブルタバに登場する2つの旋律を比べてみよう。

標題	楽譜など			
ブルタバの主題				
ブルタバ 広々とした流れ	旋律の動き (丸をつける) 短調・長調	速度 (丸をつける) 短調・長調	雰囲気	(丸をつける) 短調・長調

② 民謡と似ているのはどっち？ 丸をつけよう

ブルタバの主題 ・ ブルタバ 広々とした流れ

2、民謡を()に取り入れたのはなぜだろう？

3、学習課題に対する自分の考えを書こう(思・判・表)「ブルタバの主題」という言葉を必ず使おう

スメタナがこの曲で表現したかったことは_____である。

理由は、

4、振り返り 分かったこと、学習を踏まえてこの曲に対して思うこと